

中国経済研究

担当者 坂田 幹男

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

1949年から1978年までの中国の「社会主義計画経済」とはどのようなものであったのかを、具体的に検討していく。同時に、「改革・開放政策」（「四つの現代化」）へと転換していかざるを得なかった背景についても併せて検討する。その上で、市場経済の導入過程を三つの段階に区分して、それぞれの段階で行われた政策について検討し、中国経済が直面している問題点について考える。

●講義の到達目標

①1949年以來の中国の「社会主義計画経済」の実態を理解すること。②「改革・開放政策」への転換の背景を理解すること。③市場経済化の現状と問題点を理解すること、以上の3点の理解が到達目標である。

●講義計画

- 第1回：「社会主義計画経済」と「重工業優先発展論」
- 第2回：「社会主義計画経済」と「大躍進」
- 第3回：「社会主義計画経済」と「文化大革命」
- 第4回：「四つの現代化」と「改革・開放政策」への転換
- 第5回：「社会主義初級段階論」について
- 第6回：「社会主義市場経済」とは何か
- 第7回：「社会主義市場経済」と「国家資本主義」
- 第8回：鄧小平の「南巡講和」と「先富論」
- 第9回：市場経済化の第二段階について
- 第10回：無差別的な外資導入政策の終焉
- 第11回：市場経済化の第三段階への移行のはじまり
- 第12回：市場経済化の第三段階への移行の現状
- 第13回：中国の対外経済政策について（主に東アジア諸国）
- 第14回：「中国モデル」の展望について
- 第15回：まとめ

●成績評価基準と方法

学期末提出のレポートにより最終判定する。

途中で学習到達状況を把握するためのディスカッションを行う。

●テキスト又は参考文献

・テキスト

テキストは使用せず、講義資料を配布します。

・参考文献

坂田幹男・内山怜和『アジア経済の変貌とグローバル化』見洋書房、2016年。

坂田幹男『ベーシック・アジア経済論』見洋書房、2013年。

坂田幹男『開発経済論の検証』国際書院、2011年。

●受講上の留意点

中国に関心があるだけでなく、中国と東アジア諸国との関係にも関心があることが望ましい。